



大学病院だより

〒409-3898
山梨県中央市下河東1110
TEL: 055-273-1111(代)
病院広報委員会(病院経営企画課)
病院ホームページ
<http://www.hosp.yamanashi.ac.jp/>

「すべての患者さんに安心を」

病院長 榎本 信幸



私たち山梨大学病院のめざすものは、当院を受診されるすべての患者さんに「安心」をお届けすることです。これは現在の新型コロナウイルス流行下でも揺らぐことはありません。

現在の新型コロナウイルスに対する対策もレベルの高い予防・検査体制を構築しており**徹底した院内感染防止対策により当院でのご療養を「安心」なものにしております**。さらに地域の皆さんにもご安心いただけますように接触者の検査、重症者の治療、

ワクチン接種の推進など**私たちの高度な医療と新しい設備を活かした新型コロナウイルス感染症対策の診療拠点**として活動しております。

病をえられた患者さんは、症状、経過、治療、さらには生活などさまざまな不安を抱えながら当院を頼られて受診されます。大学病院として**山梨の医学と医療の中核**を担う当院のスタッフは、これらの患者さんに安心して治療に取り組んでいただけますように、常に次の4つの行動を心がけて皆さんの診療にあたっております。

- ① 安全な医療
- ② 親身な笑顔
- ③ 最高の技術
- ④ 一つのチーム

- ① ご安心いただくために一番大切なことは安全であることです。私たちは常に患者さんの「安全」を最優先として一人ひとりのスタッフはもちろんのこと病院のシステムの改善に不断の努力を行っております。
- ② また「親身」つまり親の身、皆さんを自分の身内と想い診療にあたりいつも笑顔で対応しております。
- ③ さらに大学病院として新しい医療技術を医師が駆使するのは当然のこと、看護師・技師・事務・支援スタッフなどがそれぞれの役割を高度な「技術」で果たせるように心がけております。
- ④ そして病院全体が一つの「チーム」、ワンチームとして患者さんを中心に全員が心を合わせて効率的に連携しております。

このようにして地域の患者さんの癒やしの中心となり、人材を育成し成果を世界に発信することが大学病院の役割です。私たちは**安全・親身・高度なチーム医療**を実践し、**山梨大学病院がすべての患者さんに安心を送り届ける山梨の医療の中核**となり、**病に苦しむ人のいない社会が実現すること**を目指しております。

当院を訪れられるすべての皆さんが安心して療養頂けますことを心より願いました実践してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

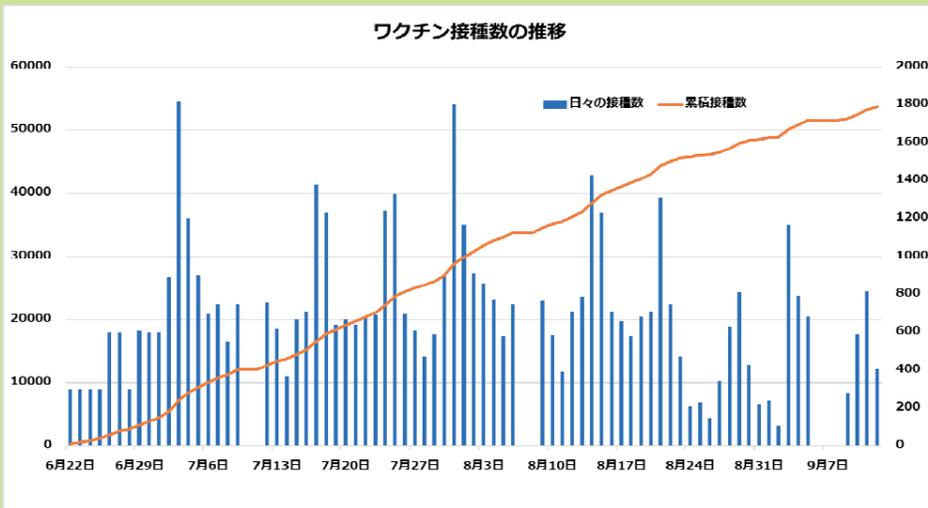
新型コロナウイルス対応について

当院では、新型コロナウイルスワクチン接種を先立って行い、山梨県を代表するワクチン接種の拠点として、9月時点で約3万人の県民の方に対して、およそ6万回もの接種を行いました。

今後はまだまだ接種が浸透していない若年層への接種率向上を図るため、39歳以下専用のワクチン会場を設けるなど、「すべての県民の皆様へ安心を」提供できるよう、今後も邁進してまいります。

また、山梨県からの要請に応え、8月下旬より「東横 INN 富士河口湖大橋」及び「ホテルルートイン山梨中央」に医師や看護師らを常駐させ、「医療強化型宿泊療養施設」として24時間態勢で運営しております。

派遣された医師は、点滴や酸素吸入などの医療措置や、自宅療養または重点医療機関への搬送を見極めるなど、患者の症状に応じた対応を行い、県内のコロナ病床の確保や、医療機関の負担軽減に貢献しています。



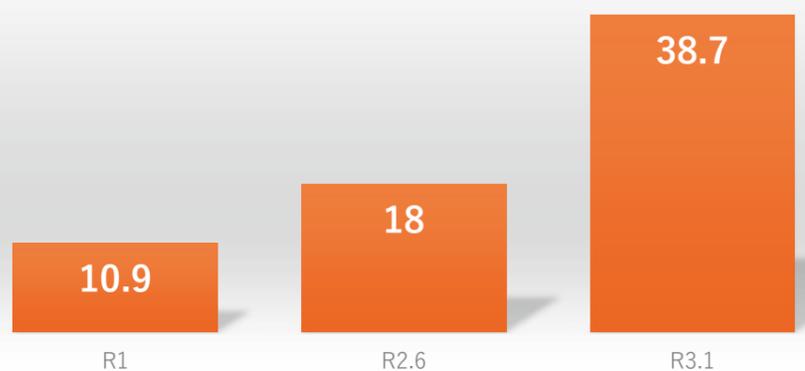
産後ウェルビーイングセンターについて

令和元年に精神科専門外来として始まった産後ウェルビーイング外来が、令和3年2月よりセンターとして活動することとなりました。当センターでは精神科医と臨床心理士、助産師を中心に、産科医や小児科医と連携しながら、産後の不安やうつに悩む母親とその夫、両親らの様々な相談に応じます。

特に数年前より産後うつが広く知られるようになり、皆様もご存知のように産後うつによって自殺に至る母親も多いことから、その支援方法の確立が喫緊の課題とされてきました。しかし、産後最長3年間まで発症することがある産後うつを正しく理解している医療者は少なく、国の施策は産後1か月の産後うつスクリーニング(エジンバラ産後うつ評価票)実施だけです。日本では産後1か月健診と4か月健診以外は母親を継続的に支える体制はありません。コロナ禍により育児をする母親の苦悩はさらに増え、当外来/センター受診者数は増加傾向にあります。

当センターでは母親が暮らす様々な生活・育児事情に寄り添って支えることが大切であると考えており、周産期の母親およびその夫のこころの不調についての正しい医療情報をご本人・家族や地域支援にあたる医療者、そして広く市民へお伝えしていくための活動をいたします。山梨県の母子が健やかに過ごせる保健・医療が全国に誇れるものとなりますよう、皆様に求められる医療を提供したいと思います。ご心配のある方は市町村の母子担当保健師に当センターへの予約を依頼してください。お気軽にご相談くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

エジンバラ産後うつ評価票高得点者 (%)



世界患者安全の日（9月17日）の取り組み

医療の質・安全管理部 部長：木内 博之、副部長：荒神 裕之

世界患者安全の日（World Patient Safety Day: WPSD）は、世界保健機関（WHO）が定めた患者安全の普及・啓発を図る記念日です。山梨大学医学部附属病院では、2019年の第1回から活動に参加しており、第3回となる本年も参加しました。

2021年の活動テーマは、「妊産婦と新生児の安全なケア（Safe maternal and newborn care）」でした。本年のテーマに合わせて、山梨県及び山梨周産期医療懇話会の後援を受け、山梨大学医学部附属病院医療の質・安全管理部が主催して、下記の5つの活動を行いましたのでご報告いたします。

1. ポスターの作成、掲示

オリジナルのポスターを作成し、当院のほか活動に賛同が得られた県内医療機関（14件）に掲示しました。

2. パンフレットの作成、配付

WPSDの活動メンバーが中心となりパンフレットを500部作成し、9月17日に当院医事課会計窓口のほか、県下の医療機関で希望者に配付しました。

3. 病院スタッフ等によるオレンジ色マスクの着用

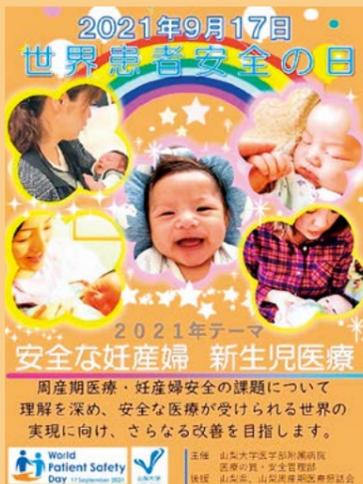
活動に賛同が得られた県下の医療者約600名がオレンジ色のマスクを着用して本キャンペーンをアピールしました。

4. TV等を通じた広報活動

テレビ山梨（UTY）の当日のニュースでの放映や、附属病院HPでの活動紹介を行いました。

5. テーマカラーのオレンジ色でのライトアップ

山梨県庁舎、駅前信玄公像、駅前広場において、テーマカラーであるオレンジ色のライトアップを行いました。



無料Wi-fiの開通について

医事課・医療情報課

令和3年10月1日より、附属病院内で無料Wi-Fiが利用可能となりました。

患者の皆様には長らくの間ご不便をおかけいたしました。

下記のID・パスワードからご利用いただけます。

なお、ご利用にあたっては簡単な設定が必要です。詳細については、外来、各病棟の掲示をご覧ください。



外来用 Wi-fi	ID	Idai_FreeWi-Fi_G
	PW	tamaho1110
病棟用 Wi-fi	ID	Idai_FreeWi-Fi_B
	PW	tamaho1110

オンライン面談について

医事課

当院では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入院患者さんへの面会を制限させていただいておりますが、少しでも安心して入院生活を送っていただけるよう、この度スマートフォンを利用したオンライン面談を開始いたしました。

面談は完全予約制で、予約受付時間は平日9時から12時までとなります。

詳細については、下記QRコードから確認いただけます。

※オンライン面談のご利用にあたっては、スマートフォンと特定のアプリケーションが必要です。

また、1日の予約枠には限りがあります。ご了承ください。

